

普及活動現地情報

「農業現場では、今」

平成 29 年 6 月号



【日高振興局】6/14 日高町立比井小学校で梅の出前授業を実施！

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

は じ め に

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



I 海草振興局 1-2

1. コマツナなどのコナガ防除対策
2. 囲いショウガ、種ショウガ試作圃現地巡回

II 那賀振興局 3-4

1. CO₂局所施用及び微生物農薬の散布用ダクトを設置
(那賀地方有機農業推進協議会)
2. イチジク株枯れ病対策技術実証園の巡回調査を実施
3. 岩出市立中央小学校でねごろ大唐の出前授業を開催
4. 那賀高校で梅加工体験授業を開催

III 伊都振興局 5-7

1. 環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナー in 伊都）を開催
2. 今年も桃狩り観光がスタート！
3. 伊都地方ファーマーズマーケット連絡協議会総会、研修会開催
4. 伊都地方農業士連絡協議会女性部会の研修会を開催

IV 有田振興局 8-11

1. 有田地方のイチゴ栽培技術向上を目的に、研修会を開催！
2. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！
3. 平成29年度有田農業技術者会総会・研修会を開催！
4. 有田地方リーダー研修会～地域の特産品を使って～を開催！
5. 有田地方環境保全型農業研究会の総会・研修会を開催！

V 日高振興局 12-13

1. 印南町農業士らによる小学生の稲作体験を実施
2. 日高町立比井小学校で梅の出前授業を実施！

VI 西牟婁振興局**14-16**

1. ウメ摘心処理樹の収穫調査を実施
2. 上富田町市ノ瀬でイタドリの栽培を開始
～中山間地における遊休農地対策および特産物づくりの推進～
3. 田辺市立上秋津小学校で「みかんの授業」を実施

VII 東牟婁振興局**17-18**

1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】
～三津ノ地域活性化協議会がサツマイモ体験農園を開催～
2. 太田のなす組合が生育・着果状況等を調査

VIII 農林大学校**19-20**

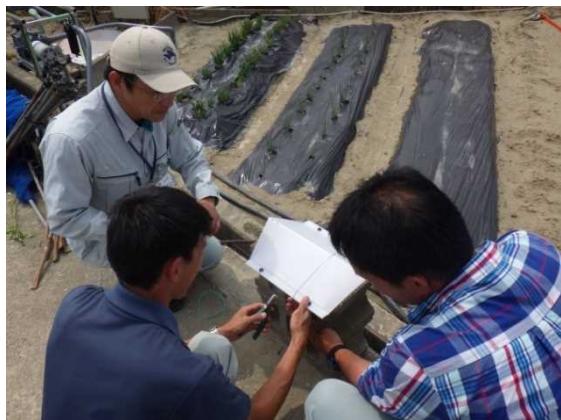
1. 刈払機安全衛生教育受講
2. 2年生インターンシップ研修（前期）

1. コマツナなどのコナガ防除対策

和歌山市内の施設栽培を中心としたコマツナなどで、コナガの防除が難しくなってきていることを受けて、今年度から防除対策の検討が始まった。

この取組は、農林水産業競争力アップ技術開発事業を活用し、農業試験場が中心となって、JAわかやま、農業水産振興課が連携して行うもので、6月1日から市内2地区（河西、布引）で、年間のコナガ発生消長を把握するため、フェロモントラップの設置を行った。

今後、フェロモン剤による交信攪乱や防虫ネット利用による防除効果などについて検討を進めていく予定。



コナガ発生消長調査用
フェロモントラップの設置



トラップ調査

2. 圏いショウガ、種ショウガ試作ほ場現地巡回

6月6日、和歌山市種生姜生産促進協議会（和歌山市、JAわかやま、県農、和歌山県）のメンバーで、圏いショウガ、種ショウガ試作生産者ほ場の巡回調査をおこなった。

圏いショウガ、種ショウガの試作は、本年で2年目で、市内4地区（滝畠、山口、西和佐、山東）5戸の生産者が取り組んでいる。

この日は、本年4月下旬に植え付けられたショウガの出芽状況を確認し、出芽本数などの生育調査をおこなった。

どの地区においても順調に出芽が始まっているが、本年は植え付け以降、6月前半時点まで非常に少雨傾向であることから、適宜かん水の実施や、今後発生が予想されるアワノメイガ等の防除について生産者に注意を促した。



ほ場巡回



出芽し始めたショウガ

II 那賀振興局

1. CO₂局所施用及び微生物農薬の散布用ダクトを設置 (那賀地方有機農業推進協議会)

那賀地方有機農業推進協議会（関弘和会長）では、CO₂局所施用及び微生物農薬（病害用）のダクト散布の技術実証を行うため、パプリカ栽培農家のハウスにおいて、ダクト装置を設置した。

これまでのCO₂施用は、ハウス全体をCO₂で満たす方法が主流であり、効率の悪さと高いコストが問題であった。実証園では植物の葉の周辺だけに適切な濃度のCO₂を施用することにより、効率的かつ低コストで植物の成長を促し、品質や収量が向上することを確認する。また、ダクト中に微生物農薬を投入し、灰色カビ病をムラなく防除することが可能かについても確認する。

当協議会では、この他にキュウリ栽培ハウス2か所にダクトを設置し、年度末に本実証試験の報告会を開催する予定である。

農業水産振興課は、実証圃の設置及び結果の取りまとめを支援し、技術の普及に努める。



CO₂局所施用ダクトの設置園

2. イチジク株枯れ病対策技術実証園の巡回調査を実施

6月14日、JA紀の里、かき・もも研究所、農業水産振興課の担当者でイチジク株枯れ病対策技術実証園2園地の巡回調査を行った。

イチジク株枯苗は樹勢の低下や枯死を引き起こす土壤伝染性の病害で、薬剤による防除が困難であることから、この病気にかかりにくい品種を台木（抵抗性台木）とした接ぎ木樹による栽培が主な対策となっている。当課では、抵抗性台木の「キバル」と「ネグローネ」の有用性について現地実証園を設置している。

今回の巡回調査で、いずれの台木も株枯れ病の症状は確認されず、順調に生育していることを確認した。今後は、この結果等を踏まえ、抵抗性台木導入に向け関係機関と検討していく。



現地での検討の様子

3. 岩出市立中央小学校でねごろ大唐の出前授業を開催

6月14日、岩出市立中央小学校の5年生3クラス89名を対象に、岩出市特産の「ねごろ大唐」についての出前授業を開催した。この授業は、児童達が地元農業に対する理解を深めることを目的とし、栄養教諭と連携しながら総合的な学習の時間を利用して行っている。

当日は、JA紀の里ねごろ大唐部会（会員13人）の中村和史会長を講師に招き、作業風景の写真パネルやねごろ大唐の実物を見せながら説明を行った。その後、生のねごろ大唐とねごろ大唐のじゃこ昆布炒めを試食した。

ねごろ大唐は、ピーマンに比べてくせが無く、果肉が軟らかく生でも甘いという感想が多くかった。特に炒め物は好評で、おかわりをする児童が続出した。

当日の給食メニューは、ねごろ大唐入りのカパオライス（タイ風どんぶり）で、講師も児童とともに給食を味わった。

同市は宅地化が進み、人口が増加している地域である。児童達が地域の特産物について学び、作物を育てる人の努力や苦労を理解することで、地元や農業を大切にする気持ちが醸成され、ねごろ大唐の消費が伸びることを期待している。



中村講師による説明



ねごろ大唐を試食する児童

4. 那賀高校で梅加工体験授業を開催

6月26日、県立那賀高等学校2年生総合学習選択生徒14人を対象に梅加工体験授業を開催した。この授業は、地域の農業や加工品について学習することを目的として行っている。

当日は、紀の川梅干振興協議会（大原稔会長）の衣笠貴美代副会長を講師に招き、紀の川市の梅の栽培や加工方法について講義を行った。

講義の後の加工実習では紀の川市産の梅を使い、紀の川梅干の漬け体験と梅ジュース加工体験を行った。紀の川梅干はその後土用干しを行い、10月頃に食べ頃を迎える。

農業水産振興課では、今後も食育・地産地消活動の一環として、紀の川梅干をはじめとする地元の農産物のPRに努めていく。（※紀の川梅干・・木熟梅を砂糖と塩で漬けた梅干。JA紀の里商標登録）



衣笠講師による授業



加工体験を行う生徒

III 伊都振興局

1. 環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナー in 伊都）を開催

農業水産振興課は6月2日、環境保全型農業の推進の一環として環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催し、生産者を含む関係者23名が参加した。当日は、かつらぎ町広口にある有機栽培の認証を受けた山本典臣氏のウメ園において現地研修会を行った後、JA 紀北かわかみ四郷グリーン店において情報交換会を行った。

現地研修会では、収穫が近づいてきたウメ園を見学しながら、山本氏より着果安定に対する取り組みや病害虫対策等について説明があった。

参加者からは、「有機栽培とは思えないくらいきれいな果実だ」、「草対策はどうしているのか」、「収量はどの程度か」など様々な意見・質問があった。

情報交換会では、当課と県農業環境・鳥獣害対策室から、クビアカツヤカミキリやキウイフルーツかいよう病、エコ農業の動向等について話題提供を行った。その後の意見交換では、ウメの灰色カビ病の防除対策やGAP認証への取り組み、農薬の登録拡大に対する要望など幅広い意見が出され、環境保全型農業に対する生産者の意識の高さを伺うことができた。当課では今後も環境保全型農業の推進に取り組んでいく。



見学者に説明する山本氏（写真中央）



情報交換会

2. 今年も桃狩り観光がスタート！

6月22日、かつらぎ町の河南地区農産物加工販売組合（倉谷孝子組合長）では、都市と農村の交流活動を目的に平成16年から取り組んでいる、桃狩り観光を開始した。14年目となる今年は、観光バス会社10社と連携し、7月31日までに計151台の予約を受け付けている。

この日は奈良県からの観光客34名を受け入れ、バス到着後、担当組合員が自園の桃畠に案内した。観光客は、組合員から収穫適期の桃の見分け方と収穫方法の説明を受けた後、1人2個ずつ収穫を体験した。組合が準備していた1人あたり4個の土産の桃と合わせ、6個

の桃を手提げ箱に詰めた後、観光客はそれぞれ販売用の桃やジャム、野菜等の買い物を楽しんだ。

農業水産振興課では、今後も組合の運営支援や桃生産への指導を行っていく。



収穫した桃を手にする3世代での
参加者



桃や加工品の販売

3. 伊都地方ファーマーズマーケット連絡協議会総会、研修会開催

6月7日、伊都地方ファーマーズマーケット連絡協議会（会長：生地利行）の総会が伊都振興局で開催され、管内の直売所7グループの会員、関係者20名が出席した。

議案は全て原案どおり可決。新役員に倉谷孝子（会長）、井尻丈志（副会長）、舛谷優（会計）が選ばれた。

総会後の研修会では、農業水産振興課の堀田主査が「直売所で活きるカンキツ・モモの品種」と題して、直売所で人気の見込める柑橘と桃の有望品種について説明した。出席者からは「どこで苗木が入手できるのか」「結実まで何年かかるか」などの質問が出された。

今後、各直売所グループ会員の意向に沿った会運営を目指していく。



講話（柑橘・桃の有望品種）

4. 伊都地方農業士連絡協議会女性部会の研修会を開催

6月30日、伊都地方農業士連絡協議会女性部会（部会長：松岡和美）は、会員の資質向上・親睦を通して、地域農業の振興に寄与するため、女性会員ら7名がナント種苗（株）宇陀研究農場（奈良県宇陀市）を訪問し研修会を開催した。

宇陀研究農場は「もっとガチンコ」をテーマに、お客様への「より具体的で実践的なご提案」をコンセプトに特別見学会を開催しており、トマト、スイカ、メロン、カボチャ、根菜・葉菜等、作物毎に新品種や有望品種、珍しい品目等を栽培・展示していた。

会員からは施設の両側に整然と並んだ収穫間近の立派なスイカ、メロン、トマト等の品種展示を見て、一様に驚きの声があがるとともに、「この時期に収穫できる種類は何か」「コールラビを試作したい」など質問や意見が出て有意義な研修となった。また、試食コーナーではメロン「クラリス」「マリアージュ・ルフレ」、スイカ「羅皇」、トウモロコシ「おおもの」等の甘さに堪能している様子であった。



ナント種苗宇陀研究農場において

IV 有田振興局

1. 有田地方のイチゴ栽培技術向上を目的に、研修会を開催！

6月15日、振興局大会議室において有田地方イチゴ生産者研修会を開催し、管内のイチゴ生産者19名が出席した。

研修会では、農業試験場 東主任研究員から、①「まりひめ」の炭酸ガス施用による増収・高品質化について、②摘果による大玉果生産について、③県オリジナル品種「紀の香」の栽培技術について、④炭疽病対策として秋期ランナーを利用した親株育成方法について講演いただいた。また、農業水産振興課の南方普及指導員より、管内のイチゴの栽培状況と補助事業について説明を行った。生産者からは、高設栽培における養液のpH調節等について質問があり、活発に意見交換が行われた。

管内のイチゴ農家（約40戸）は、ほとんどが温州みかんとの複合経営であることから、当課では繁忙期が重ならないような作付け体系や栽培技術について指導を行っていく。



農業試験場 東主任研究員による講演

2. 田んぼの学校（糸我小学校）で田植え・アイガモ放鳥授業開催！

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会（農業士・農業者を含む地域のボランティア団体）の協力のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでいる。

6月13日に、山崎佳彦氏（元指導農業士）の田んぼにおいて全校児童（81名）による田植えが行われた。同氏の説明の後、児童は一列に並び、慣れない田んぼに足をとられながらも1株ずつ丁寧に植えていった。当日は田代副市長のほか、振興局の岡野局長、岡田農林水産振興部長も田植えに参加した。

また、同月22日にはアイガモとアヒルのヒナを放鳥した。農業水産振興課の池田普及指導員がアイガモ農法について説明した後、児童が孵化させたアイガモ15羽と大阪の業者より購入したアヒルのヒナ18羽の計33羽を田んぼに放った。

今後も、農業水産振興課では地域の農業者と共に、農業教育推進事業として小中学校における学習への支援を行っていく。



田植えの説明をする山崎氏



田植え



放鳥前に校庭を散歩



放鳥する児童ら

3. 平成29年度有田農業技術者会総会・研修会を開催！

6月23日、果樹試験場にて有田農業技術者会の平成29年度総会・研修会を開催し、会員39名が出席した。同会は農業水産振興課普及グループ、果樹試験場、JAありだ、農業共済組合中部支所、有田川土地改良区、教育機関等から構成される団体（会員64名）であり、農業水産振興課が事務局を務める。

総会では、議案が全て原案どおり承認され、新会長はJAありだの寺杣公志氏が務めることとなった。

研修会では、同試験場栽培部の鯨部長より「今年の温州みかんの状況について」の講演があり、会員らは果実の少ない樹の管理や、かん水の重要性について学んだ。その後、同試験場環境部の中部長より「ヤノネカイガラムシの第3世代について」の情報提供を受けた。

同会では、今年度もかん水情報の提供やチャノキイロアザミウマ等の発生予察調査等を行っていく。



総会



研修会

4. 有田地方リーダー研修会～地域の特産品を使って～を開催！

6月12日、有田市初島公民館において、有田地方生活研究グループ連絡協議会（会長：宮本富美子 氏）の会員及び関係者34名が参加し、地元農産物の利用拡大と加工技術の向上を目的に、有田地方リーダー研修会を開催した。

今回は「有田市」の特産品である「太刀魚」、「トマト」、「柑橘」を使ったレシピの実習として、会員と農業水産振興課の池田普及指導員が講師を務め、グループに分かれて調理を行った。

できあがった料理を参加者全員で試食したところ、いずれも好評であったが、特に、太刀魚を使ったパン粉焼きは比較的簡単で美味しいとの意見が寄せられた。会員らは多彩なメニューに舌鼓を打ちながら、和やかな雰囲気の中で交流することができた。

今回の研修を通じて、その土地ならではの料理について会員間の意見交換が盛んになり、地域産品の利用拡大の一助となることを期待したい。



実習中の様子



皆で試食

5. 有田地方環境保全型農業研究会の総会・研修会を開催！

6月26日、果樹試験場にて有田地方環境保全型農業研究会（会長：池田義行 氏、会員70名）の総会・研修会が開催され、会員、新規会員希望者、関係者ら合わせて約40名が参加した。

研修会では、株式会社 DGC テクノロジーのチーフリサーチャーである、横山和成氏より「土壤微生物の多様性・活性値を活用した健康な土づくり」と題した講演会が行われた。土壤中の微生物が多様であることの重要性や、安全で高付加価値な農産物を作るための土づくりの方法などについて、会員らは熱心に聴講し、「土の中の微生物をより多くするためには何を土に混ぜればよいか」等の質問があり、活発に意見交換が行われた。

同会は、化学肥料や農薬を減らしたカンキツ栽培を実践している、あるいはそれに興味を持つ管内の農家を中心に構成されている団体であり、会員の栽培技術向上や知識習得を目的として定期的に研修会を開催している。

今後も、農業水産振興課では環境保全型農業の普及・推進の一環として活動支援を行っていく。



総会



会長の池田氏



講師の横山氏

1. 印南町農業士らによる小学生の稻作体験を実施

印南町農業士会（尾曾紀文会長）は、食育活動の一環として、毎年、地域の農家らと協力しながら印南町立稻原小学校で稻作体験を実施している。

3年生から6年生までの学生53名が参加。本年度は5月12日にモチミノリ（もち米）の播種作業を、6月8日に小学校前の水田で田植えを行った。

田植え作業では、印南町農業士会会員や地域の農家の指導の下、移植位置のマーカーがついた紐を前に学生が横一列に並び、手で苗を植えた。

初めて田んぼに入る3年生は、最初は泥の感覚に戸惑っていたが、最後には「もう終わり？もっとしたい！」と楽しそうに話していた。

今後は10月上旬に学生による稻刈りを実施し、最後は全校で餅つき大会を行う予定である。印南町農業士会では、引き続きこのような農作業を通じた食育を推進するとともに、農業水産振興課としても食育活動の一環として支援していく予定である。



農業士による播種作業の説明 (5/12)



播種作業の様子 (5/12)



田植え作業 (6/8)

2. 日高町立比井小学校で梅の出前授業を実施！

6月14日、日高町立比井小学校6年生（10名）を対象に、梅の生産者と農業水産振興課職員が講師となり、梅の出前授業を実施した。

この出前授業は、県と県教育委員会主催で農林水産業への理解と郷土愛や食に対する感謝の気持ちの醸成を目的に、平成24年度から実施している。

最初に、当課の植田普及指導員から、梅の生産量や梅の特徴、梅干しの作り方などを説明した。

次に、管内の梅生産者で食育ボランティアである小田美津子氏が梅についての話をした。小田氏は、梅干しはとても健康に良い食べ物だということ、子どもの頃、お腹が痛いときや気分が悪いときに梅エキスを食べた想い出などを話した。

その後、小田氏が冷凍梅を使った梅ジュースの作り方を実演し、説明を聞いた後、児童はひとりずつ配られたボトルに冷凍梅と砂糖を交互に入れ、梅ジュース作りを体験した。また、事前に作っていた梅ジュースや、梅シロップの牛乳割りを試飲した。

比井小学校は海に近い地域であり、農業を営む家庭の児童は少なく、ほとんどが梅ジュースを作ったことがないということだった。体験を終え、児童からは「こんな簡単に梅ジュースが作れるなんて知らなかった」、「自分のジュースができあがったら、いろんな飲み方をしてみたい」などとの感想が聞かれ、梅についての関心が高まったことがうかがえた。



梅ジュースの作り方を説明する
小田美津子氏



梅ジュースづくりの様子

1. ウメ摘心処理樹の収穫調査を実施

農業水産振興課では、「南高」の安定生産や剪定作業等の省力化につながる摘心処理栽培を推進するため、田辺市三栖に現地実証園を設置している。実証園では7年生樹から摘心処理を開始し、本年まで5年間継続して処理してきた。

今回、摘心処理の収量への効果を確認するため、6月14日に収量調査を実施した。11年生樹で一樹当たりの収量は約70kg、着果個数は約3千個で、ともに摘心処理しなかった樹に比べて約1.5倍多くなった。また、一果平均重はほぼ同じであった。

過去4年間の結果をみると、摘心処理した方が7年生から11年生までの各樹齢ともに一樹当たりの収量で上回り、4年間の合計収量も約1.5倍多くなった。一方、徒長枝の発生本数は3割程度少なくなった。

以上のことより、若木期から摘心処理することで収量性が高まり、徒長枝の発生本数が少なくなることが実証でき、增收およびせん定作業の省力化につながることがわかった。

当課では、これまで摘心処理や処理した樹のせん定について講習会を開催する等で現地普及を図ってきた。今回の調査結果についても生産者や関係者へ情報提供を行い、今後も積極的に普及推進を図っていく。



収量調査の風景



摘心樹の収穫時着果状況

2. 上富田町市ノ瀬でイタドリの栽培を開始

～中山間地における遊休農地対策および特産物づくりの推進～

6月6日、上富田町市ノ瀬において、普及指導員と林業試験場職員の指導のもと、市ノ瀬町づくり推進協議会（会長：池口公二）の会員10名と上富田町役場職員がイタドリ苗を定植した。同協議会は、住民自らが特色ある地域づくりを進め、地区の課題を克服する目的で平成28年6月に設立した地区住民等で構成された団体である。

今回、定植した圃場は参加した会員の所有農地で、苗は普及指導員が日高川美山のイタドリ栽培園より譲り受けた地下茎をポット苗にし、林業試験場で育苗したものを使用。参

加者は、普及指導員と林業試験場職員から植え付け間隔や方法、栽培管理について指導を受けた後、面積 1a に手際よく 134 株を定植した。

平成 31 年の春には収穫が見込めるため、参加者らは加工方法についても今後、検討していきたいとのことであった。

当課では、遊休農地対策および特産物づくりとしてイタドリの栽培を推進しており、今後もイタドリを含めた身近で栽培が容易な作物の栽培を推進していく。



マルチ被覆した畠へ 2 条植えで定植

3. 田辺市立上秋津小学校で「みかんの授業」を実施

6 月 12 日、普及指導員と JA 紀南青年部員が講師となり、上秋津小学校 5 年生の児童（45 名）を対象にみかんの授業を実施した。

上秋津小学校では、地域の主要産業である農業について各学年でテーマを決めて一年を通して学ぼうと、学校と地域の農家、老人会、JA 紀南青年部、公民館、振興局等が協議をして活動計画を組んでいる。5 年生はみかんをテーマにしており、今回の授業実施となった。

最初に、普及指導員が上秋津で 80 種類以上の柑橘が栽培されていることやみかんの栽培方法を説明した。

その後、JA 紀南青年部員から「農業が好きなので、みかんをつくるのが楽しい」、「自分が丹精込めてつくったみかんを食べた人が美味しいと言ってくれた時に喜びを感じる」等、みかんづくりに対する思いが話された。

児童からは「美味しいみかんができる場所は」、「農業をするきっかけは」等の沢山の質問があり、大いにみかんづくりに興味を持ったようだった。

最後には、上秋津でこの時期に収穫できる柑橘の試食とともに「品種当てクイズ」を行

うなど楽しい授業となった。

今後、みかんの摘果や収穫等の授業を行う予定である。



みかんの授業風景



柑橘の試食（品種当てクイズ）

VII 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【6次産業化による地域の活性化】

～三津ノ地域活性化協議会がサツマイモ体験農園を開催～

6月10日、三津ノ地域活性化協議会(下阪殖保会長)及びJAみくまの、農業水産振興課は、新宮市熊野川町の休耕田を活用して「さつまいも体験農園」を開催した。市内外から家族連れなど10組(30名)の参加者があった。

最初に当課普及指導員がサツマイモ栽培について説明したあと、協議会メンバーらが黒マルチの被覆や、サツマイモ苗の植え付け等を指導した。

参加者は、1組当たり長さ6mの畠2列にサツマイモ苗を約40本植え付け、手作りの看板を立てた。

参加者からは「ちょっと暑かったけど楽しかったです。たくさんなってくれれば」といった感想が聞かれた。

作業後は、「熊野川ふるさとキッチン」のメンバーらが作ったサツマイモのまんじゅうと蒸しパンの2種類のおやつを食べた。

今後は、「シェフに習うサツマイモ料理」や「サツマイモ収穫祭」、「サツマイモ加工」を予定しており、体験農園を通じて地域住民等との交流を図っていく。



サツマイモ栽培説明



マルチ被覆



植付け説明



植付け作業

2. 太田のなす組合が生育・着果状況等を調査

6月26日、太田のなす組合（松本安弘会長 会員4名）は、市場関係者、JAみくまの、農業水産振興課とともに会員それぞれの園地でナスの生育・着果状況等を調査した。

出荷は6月5日から始まったが、生育は夜間の低温、少雨により平年に比べ3日程度遅れている。

また、6月21日の大雨・強風により圃場の冠水や風害が見られたが、速やかな排水・防除対策が行われていた。

これからアザミウマ防除の徹底、一芽切り返し作業、摘葉をおこない、収量増加と果実の高品質化を目指していく。



生育・着果調査

1. 刈払機安全衛生教育受講

6月6日、1年生24名、社会人課程5名が刈払機を安全に使用するための知識や技術を身につけるために「刈払機安全衛生教育」を受講し、修了証を手にした。

まもなく実習における刈払機デビューをすることとなり、講習で習った注意事項を守りながら怪我の無いよう取り組んでもらいたい。



講義を受ける様子

2. 2年生インターンシップ研修（前期）

本校では、6月と12月の2回に分けて30日間のインターンシップ研修を実施している。前期は6月6日から20日までの15日間で、就農や技術者を目指す学生は農家留学に、就職希望者は農業法人・農業関係企業に別れて研修を行った。

今年は8名が先進農家に、6名が企業研修でお世話になった。

学生は本研修を通じて、社会人としての心構えや先進農家の技術力・経営を肌で感じたことと思われる。



食品加工会社での研修



かつらぎ町での農家研修



かつらぎ町での農家研修



海南市での農家研修



有田川町での農家研修



有田川町での農家研修

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4931
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489